



ボーイスカウト東京連盟
あすなる地区 広報誌
第36号
2021年(令和3年)
9月6日
組織拡充・広報委員会

オリンピックでモンテネグロ国旗を掲揚

今夏開催されたオリンピック、パラリンピックでは、参加選手への歓迎メッセージとして、大会選手村で参加各国の国旗、大会旗等を掲揚する動画が写しだされました。

この歓迎動画は、各県のボーイスカウトとガールスカウトが掲揚したビデオを集めて一本にしたもので、東京連盟では各地区が国旗を分担し、あすなる地区は「モンテネグロ」の国旗を担当しました。

このため、6月20日(日)、杉並区役所正面入口の国旗掲揚ポールで、杉並3団ベンチャー隊の松窪遼史さん、杉並11団ボーイ隊の出原ももさんが、モンテネグロの国旗を広げ、掲揚する場面と、2人が並んで笑顔で手を振る様子をビデオで動画撮影しました。

ビデオ撮影は杉並11団の山本虎太郎さんが担当し、日本連盟に届けました。



モンテネグロは1944年に6共和国で構成される「ユーゴスラビア社会主義連邦共和国」の1共和国となり、2006年に独立を宣言。面積は福島県とほぼ同じで、人口は約62万人(杉並区の人口は約57万人)。ボーイスカウト登録者数は2021年2月現在1,268人。(あすなる地区は2021年8月現在746人)

オリンピックのメダル数はゼロ、パラリンピックは卓球で銅メダル1つ。

首都はボドゴリツァ。公用語はモンテネグロ語。

モンテネグロは美しいアドリア海や大自然、中世初頭からの歴史あるスポットが楽しめる国で、世界遺産の街コトルをはじめ、多くの見どころのある街がある。

国旗掲揚は選手村の電子看板

オリンピック開催中、選手村の様々な場所に設置されたデジタルサイネージ（電子看板）を通じて、オリンピック参加国の国旗掲揚の「ウエルカム動画」が選手の皆さんに届けられました。



あすなる地区が掲揚を担当したモンテネグロの国旗は、左から2列目、下から2行目

東京連盟各地区で掲揚の国旗

東京連盟の各地区が掲揚奉仕をした国旗、大会旗は次の通りです。



大都心：ガーナ



さくら：ケイマン諸島



城東：チャイニーズ・タイペイ



山手：コンゴ



山手：難民合同選手団



つばさ：ジャマイカ



世田谷：パラグアイ



あすなる：モンテネグロ



城北：ラオス



練馬：リトアニア



多摩西：リヒテンシュタイン



新多磨：ルーマニア



南武蔵野：ルワンダ



町田：レバノン



北多摩：ロシアオリンピック委員会

富士スカウト章の伝達

7月2日(金)開催の東京連盟オンライン理事会の冒頭で、杉並11団の佐藤 颯さん、三好 彩さんに富士スカウト章の伝達式が行われ、引き続き7月25日(日)、地区ベンチャーフォーラム開会前に、進級証・チーフリング・バックルがスカウトに伝達されました。



また、隼スカウト章が杉並11団の古澤直樹さん、吉岡大輝さんに伝達されました。



佐藤 颯さん



三好 彩さん



古澤 直樹さん



吉岡 大輝さん

オンライン合奏のプロジェクト

杉並11団 佐藤 颯

コロナ禍のこの時期に富士スカウトになれたことは、私の人生の中で大きな良い経験として心に残っています。

私は高校生活で、自らが部長を務めたプラスバンド部の活動に力を入れていたため、富士スカウト章項目の進度の遅れから、富士スカウト章取得を諦めかけていました。

しかし、2020年の春から新型コロナウイルスの感染が世界で拡大し、部活動も中止せざるを得ない状況になり、富士スカウト章取得の期限も伸びることを知った私は、もう一度富士スカウト章に挑戦してみようと思いを固めました。

プラスバンド部の文化祭公演の中止を悔しがる周りの声から、私はオンライン上での合奏活動を富士スカウト章の個人プロジェクトとして進めていこうと考え、有志で活動メンバーを集め、演奏曲を決めて楽譜を配り、各自が撮影した演奏動画を私のパソコンで編集し、完成した動画をGoogle Driveで公開することにしました。

私の受験との両立から、動画の完成は2021年の3月になりましたが、それでも完成した動画を5人の参加メンバーやその家族、他の部員に見せると、「できなかった公演の代わりに演奏できて嬉しい」や、「見られなかった演奏をオンライン上で見れてよかった」等の声を頂くことができました。

オンラインの合奏は、同時演奏の楽しさを味わえないことや、音量変化などの表現を合わせるのが難しい課題は残りましたが、このプロジェクトによって身に着けた技術を使って、今後もオンライン上で合奏していきたいと考えています。

私の富士章取得への道は、コロナ禍を臨機応変に活かさなかったら、オンライン上の演奏は考えなかったと思いますし、富士スカウトになれていません。大きな困難・障害に絶望するのではなく、その時々で持っている知識・技術を活かし、成し遂げられた経験から、工夫次第でその時代を最大限に楽しむことができるのだ、と深く感じました。

“タラッリ”プロジェクト

杉並11団 三好 彩

私は少し遅れて、富士章を取ることができました。これは隊長や周りでサポートしてくれる人が多くいたからです。高校生活は部活でいっぱい、正直、ボーイスカウト活動が前までのように満足いくほどできていませんでした。隼スカウト章をとるのもやっとだった自分が、富士スカウト章をとることができて、とてもうれしかったです。

私は「今までお世話になった人に感謝の気持ちを伝えられるようにしたい!」という思いから、杉並11団の本部がある教会で、復活祭の日にイタリアの伝統お菓子である“タラッリ”を配る計画を考えました。さまざまな年齢の方を対象にした計画なので、そのままでもおいしいと感じる大人もいれば、そのままだと甘くないと感じる子供もいて、ただ“タラッリ”を作るだけではうまくいきませんでした。みんなに美味しいと思って欲しかったので、甘くするために砂糖を多く入れてみたり、ジャムを作りました。これを思いついたのは、ベンチャーのみんなからのアドバイスがきっかけでした。たくさんの人から案をもらい、自分の中で最高の計画を作ることができました。



私が時間をかけて考えた“タラッリ”計画は、コロナ禍でできなくなり、やる気が薄れることもありましたが、できなくなった中で、できることを見つけてやることの楽しさや、諦めないことの大切さを学ぶことができました。

普通に計画を行うことができていたら、私はこのことを気付けなかったと思います。この経験を生かし、これから先、何事にもすぐに諦めず、頑張りたいと思います。そしてこの計画を行うことができて、今までたくさんお世話になった方々に感謝を伝えることができ、とてもよかったです。

ひよどり山の佐藤場長に地区感謝状の贈呈

2021年度地区表彰として地区総会で「感謝状」の贈呈が予定されていた「ひよどり山キャンプ場」へ、7月11日(日)、岡村地区協議会長、佐藤地区委員長、飯沼地区コミッショナー、下地前地区コミッショナー、島野営行事委員長がお伺いし、場長の多摩西地区佐藤研治様へ佐藤地区委員長から感謝状が手渡されました。

地区のスカウト技能訓練を始め、各団・隊の活動でお世話になっていることへの謝意をお伝えするとともに、今後も引続き利用させて頂く旨、お願いをしました。



故平野謙吾さんに地区感謝状の追贈

地区委員長 佐藤武信

1月10日に肝臓癌で亡くなられた杉並2団平野謙吾さんへの地区感謝状追贈のため、緊急事態宣言が解除されていた7月11日(日)に、奥様の道子様にご案内いただき、お墓のある調布不動尊常性寺へ岡村地区協議会長とお参りし、墓前で奥様へ伝達させて頂きました。

平野さんは、中央10団(築地本願寺)のスカウトとして活躍後、再び杉並2団(築地本願寺和田堀廟所)で指導者として活躍されていました。

平野さんが杉並地区の副コミッショナー時には、シニアスカウトの「台湾派遣」を実現させ、指導者講習会、スカウトキャンプ研修会、ロープワーク研修会等の主任講師・スタッフも数多く歴任されました。

東京連盟でもウッドバッジ研修所所員奉仕を多数されたほか、海外赴任先のベトナムでは、現地法人の社長を勤めるかたわら、指導者やスカウト達とも交流され、国際親善にも尽くされました。

下段3枚の写真は、平野さんのFacebookより転載しました。



故 平野謙吾さん



平野さんの眠る「浄心廟」前で奥様の道子様へ



第3回日本ジャンボリー(S37)参加
(前列一番左が平野さん?)



和田堀廟所恒例バザーにて



ベトナムのスカウトへ
ロープワーク講習会

地区ベンチャーフォーラム 社会的弱者の支援活動について

7月25日(日)、地区ベンチャーフォーラムがオンラインで開催され、13名が参加しました。フォーラムは対面で実施の予定でしたが、コロナ禍により、半日のZOOMのオンラインになりました。

2021年度のテーマは「私たちにできる社会的弱者（高齢者・障がい者等）への支援活動について」で、社会の中で立場が著しく不利な状況や不利益な状態に置かれている社会的弱者へ、わたしたちに今できる支援活動には何があるのか、また、何ができるのかを考えて討議しました。

岡村地区協議会長の基調講演では、SDGs（持続可能な開発目標）、社会的弱者、支援の実例、ベンチャースカウトらしい取り組みについての話があり、永倉副コミッショナーから、グループ討議の際は他人のアイディアは否定せず、自由な発想が大切との説明のあと、ZOOMの3つのブレイクアウトルームに分かれて討議しました。

Aグループは「子ども食堂支援計画」をテーマにして、子どもの貧困と学習の実態を知り、運営のサポート、学習支援、子供達の話し相手になることなどを討議し、子供の貧困と学習の課題を解決することを目指しました。

Bグループは「Let's Communication without barrier」をテーマにして、高齢者にパソコン・スマートフォンの使い方教室を実施して、ネットを使い、孤独を感じる時間を減らせるように支援したり、情報格差をなくすことをめざしました。

Cグループは「ユニセフ募金による社会的弱者の救済」をテーマにし、募金箱やポスターの作成、ユニセフ募金の参加による社会的弱者の支援を目指しました。

各グループは指定時間に再度画面上で集まり、グループの検討内容を発表しました。

初めてのオンラインのフォーラムのため、運営スタッフはグループワークにZoomのブレイクアウトルーム機能を活用して、時間短縮のためグループワークの運営方法を工夫し、グループワークで使う付箋紙は、ローバースカウトの提案でGoogleの“jamboard”を利用し、ホワイトボードを共有できる機能を活用しました。

参加スカウトは、初めて会うスカウトとオンライン画面越しでのグループワークとなりましたが、各グループを担当したローバースカウトのサポートにより、徐々に慣れて意見を出し合い、グループの意見をまとめることができました。

9月4日(土)と5日(日)にオンラインで開催の東京連盟ベンチャーフォーラムには、杉並11団の海上紗慧さん、中野8団の鈴木元太郎さんが参加し、飯沼地区コミッショナーはパネルディスカッションの司会、地区ローバーの杉並5団関戸大輔さん、杉並11団佐藤 颯さんは運営を支援しました。

リモートの料理コンテストと営火

杉並5団 ボーイ隊長 森 宇宙

コロナの感染拡大により、夏キャンプも対面集会もできず、我慢の夏となっていますが、杉並5団ボーイ隊では工夫を凝らして、オンライン集会での活動を続けています。

8月15日(日)には「リモート料理コンテスト」を開催。テーマは炊飯器NG・鍋で炊飯する「ごはん」と、指定食材を使っの「おかず」で、美味しそうな料理を競い合いました。指定食材は事前に「豚肉・鶏肉・卵・魚介」の4種からくじ引きで決定済み。指定食材での献立を考えるところからが勝負です。そしてコンテスト当日はお昼の12時に集合。それまでに料理と盛り付けを終わらせなければいけません。

料理紹介の後は「いただきます！」と実食開始。食べながら順番に。米の炊き具合や家族からの感想も発表してもらいました。家族からの感想は「美味しい！」と、みんなが上々の評価をもらえて一安心です。

料理はどれも美味しそうでしたが、コンテストは「鯛のアクアパッツア」と「とん平焼き」が同点優勝！

今後のキャンプでも、美味しい野外料理を期待したいと思います！！

そして、8月29日(日)の夜には、「リモート営火」も開催。ビーバー隊とカブ隊も参加して、みんなで歌って踊って、営火を楽しみました！

一日も早く感染が落ち着き、またみんなで集まって楽しい活動ができることを心待ちにしています！



カブ新チャレンジ章 コラボレーションバッジのすすめ 中野8団 カブ隊隊長 小倉栄一

中野8団カブ隊では、ここ数年、企業とのタイアップによるコラボレーションバッジである新チャレンジ章のプログラムに取り組んでおり、今年は残念ながら緊急事態宣言で夏のキャンプが中止になったため、その代替プログラムとして、ミツウロコヴェッセル社とのコラボレーションバッジ“ピカッと探検家”の取得に取り組みました。

“ピカッと探検家”は、ワークブックの電気スゴロクから始まり、電気の供給の仕組みや、発電の種類、資源を消費する従来の発電と再生エネルギーの種類などについて学び、再生可能エネルギーや電力自由化、家庭での月当たりの電力量と、どの季節が多く使ったかなどを知って、節電などの意識が高まりました。最後に節電などエネルギーについて自分たちに出来ることを考えて、“ピカッと探検家宣言”をして課目修了です。

実施するには申請して選出された上で進める段取りが必要ですが、これまで審査に落ちたことは無く、流れをつかめば容易に実施出来ます。組や隊の対面の活動に向く課目もありますが、多くは家庭やオンラインでも取り組み可能ですし、企業とのタイアッププログラムで、無料で参加出来るので、皆さんも是非トライしてみてください！

新チャレンジ章は本年度途中の加わったものも含め、7つが進行中で、年央で締め切っている章が多いですが、興味があれば、詳細は日連の加盟員向け情報 (<https://www.scout.or.jp>)をご覧ください。



			
フィールド マスター ビクトリノックス・ ジャパン	セーフティ エキスパート リオティント	フォレスト ガーディアン FSCジャパン (日本森林管理協議会)	ピカッと探検家 ミツウロコヴェッセル
			
おなか エキスパート ヤクルト本社	STEM博士 セールスフォース・ ドットコム	アウトドア チャレンジャー モンベル 〈次年度調整中〉	サイバーセキュリティ ヒーロー ポロアルトネット ワークス

コラボレーションバッジを実施する場合の流れは以下の通りです。

- ①実施計画：年プロ作成時にコラボレーションバッジと参加人数、取組時期を決定
- ②応募開始：日連のウェブページから隊単位で応募。年度前の2月頃から年央まで、数期に応募する場合あり
- ③決定通知：締切から約1か月後
- ④資材送付：決定から約1か月後、ワークブック、人数分のバッジ、実施の手引き(3部)が送付される
- ⑤プロ実施：ワークブック、施の手引きなどを参考に、組集会や隊集会で実施
- ⑥バッジ授与：課目をクリアしたスカウトにバッジを授与
- ⑦活動報告：活動内容を記録して日連に報告